

核兵器の廃絶と恒久平和実現を求める意見書

核兵器の廃絶と恒久平和の実現は、私たち被爆国民の心からの願いであります。

しかし核兵器は未だに世界に約2万数千発も存在し、核兵器の脅威から、今なお人類は解放されていない状況にあります。

こうした中、オバマ米国大統領は、2009年4月にプラハで行った演説で、核兵器を唯一使用した国の道義的責任を表明し、平和で安全な「核兵器のない世界」を提唱しました。さらに、同年9月には、国連安全保障理事会で核軍縮・不拡散決議を全会一致で採択したことは、歴史的に大きな前進と考えられます。

よって、このような機運を捉え、政府におかれては、唯一の被爆国として、核兵器の廃絶と恒久平和実現のため、被爆65周年を迎える本年の核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議に向けて、国際社会に働きかけ、実効ある核兵器廃絶の合意がなされるように、主導的役割を果たすことを強く要望いたします。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

平成22年3月3日

尼崎市議会議長

関係大臣あて